

南三陸 復興まちづくり通信

第9号(平成27年3月発行)



一般社団法人 復興みなさん会

復興みなさん会は平成23年10月から、南三陸町内で東日本大震災の復興支援を継続しています。法人化を機会に、町内外の皆さまに活動の内容をご理解いただき、共に地域の再建への道を歩んでいくために『南三陸復興まちづくり通信』を毎月発行しています。読者の皆様からの情報、ご意見、ご提案を頂戴できれば幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。



(東団地 イメージパース)

このうち、15日午前中に開かれた東地区の懇談会には住民49人が出席しました。担当者から公営住宅の配置計画や造成工事の進捗状況について詳しく説明を受けた後、入居する予定の街区毎に6つのグループに分かれて意見を出し合い、発表しました。東地区では、最も早い街区では4月から5月にかけて、夏頃にはすべての街区で復興公営住宅の建設工事が始まる予定です。担当者によると「入居は1年ちょっと先になる予定」とのことでした。

志津川で「くらしの懇談会」開催

志津川で整備が進められている東地区、中央地区、西地区の復興公営住宅の入居予定者を対象にした「くらしの懇談会」が2月14、15の両日、役場会議室で開催されました。入居に向けて、新しいくらしを具体的にイメージしてもらうとともに、入居者同士の交流や、意見交換をしてもらうのが目的です



(役場会議室で行われた「くらしの懇談会」の様子)



(参加者全員で笑顔の記念撮影)

南方仮設集会所で「椿のお茶会」開催

南方仮設住宅の集会所で2月28日、復興みなさん会主催の「椿のまちづくりお茶会」が開かれました。「椿のたねっこ拾いありがとうイベント」と銘打ったこの日の会では、「椿ものがたり」のレポートが行われ、これまでの活動を振り返りました。また、同仮設住宅集会所で、椿の切り紙やブローチなどを制作している「きりこくらぶ」のメンバー8人が、椿の種から絞った椿油を使った「けんちん汁」を提供し、みんなで楽しく会食しながら和やかに交流しました。

女川・雄勝への視察研修ツアーを行いました

復興みなさん会主催の「女川・雄勝視察研修」が2月20日に行われました。すばらしい歌津をつくる協議会「震災復興支援部会」との共催で、歌津地区の行政区長、契約会長、仮設住宅の自治会長など16人が参加しました。

女川では、UR 都市機構女川復興支援事務所の太田副所長の案内・説明で、情報交流館や駅前中心部、災害公営住宅などを見学しました。

午後は石巻市雄勝地区に移動し、雄勝総合支所の三浦次長から、同地区の防災集団移転事業と災害公営住宅整備事業についての取り組み、まちづくり事業の諸課題について詳細な資料を



(完成したJR女川駅と整備が進む駅前商業施設用地) 基に説明をして頂きました。その後、石巻市立大川小学校の被災の状況を視察し、帰途に就きました。



(復興の現状について報告をする阿部正さん)

「支援から始縁へ…新たな繋がりへの幕開け」

～大牟田で東日本大震災復興支援活動報告会～

「東日本大震災復興支援～絆～プロジェクトおむた」が主催する「支援活動報告会」が3月13日福岡県大牟田市の大牟田文化会館で開催され、市民ら約200人が参加しました。席上、すばらしい歌津をつくる協議会事務局の阿部正さんが、「南三陸町のこれからのまちづくりへの展望」と題し、復興の現状について報告を行いました。このイベントには、「絆ベンチ」の製作に協力した歌津伊里前の木工所経営高橋忠雄さんも招かれました。



(チョコとチョコバナナの仕上げをする子供たち)

「バレンタインチョコづくり」で交流

平成の森仮設住宅集会所で2月14日、「バレンタインチョコづくり」イベントが行われました。住民間の交流を図り絆を深めるため、県臨床心理士会、ドコモショップ古川中央店、復興みなさん会の3者が共催したもので、仮設で暮らす親子連れなど32人が参加しました。子供たちは慣れない手つきでチョコレートを湯煎したり、型に流し込んだりした後、ハートや星形、カラーシュガーなどをトッピングして仕上げていました。

一般社団法人 復興みなさん会

〒986-0751 宮城県本吉郡南三陸町志津川字上の山26
上山八幡宮 社務所内 minasan.msrk@gmail.com

当法人は、本年度の宮城県震災復興担い手NPO等支援事業の助成金を受けて、活動を行っています。